

2022(令和4)年度 地域連携交流サロン (2023年2月22日開催)

参加者アンケート集計結果

回答者数9名/参加者数18名

※設問1、2:回答者数 23名(申込フォームより)

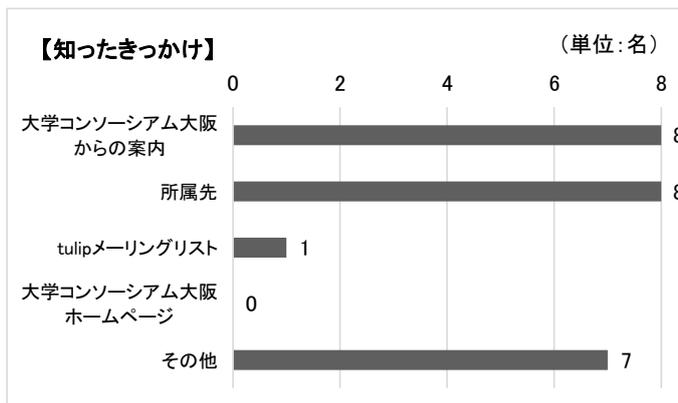
1.本イベントを知ったきっかけ(複数回答可)

1 大学コンソーシアム大阪からの案内	8
2 所属先からの案内	8
3 大学コンソーシアム大阪 ホームページ	0
4 tulipメーリングリスト	1
5 その他	7

【その他】(自由記述)

- ・ シミポタ※(サイト、メーリングリスト) (計4名)
- ・ 他自治体
- ・ 友人
- ・ 家族

※大阪市市民活動総合ポータルサイト



2.参加動機(自由記述要約)

- ・ 自大学学生のボランティア支援の在り方の参考とするため。
- ・ 自大学のボランティアセンターの取り組みがテーマであるため。(他1名)
- ・ 学生にボランティア参加を案内する窓口としての各大学のボランティアセンターの使い方を具体的に知りたい。また、今の学生のボランティア参加について、どのように考えているか、どの様な関わりを求めているのかを知りたい。(他1名)
- ・ 産官学や公民連携の取組みにつながればと。(他3名)
- ・ 地域活動団体の活動ボランティア獲得のヒントになればと。(他2名)
- ・ 大学生の社会課題解決参画や人材育成について学びたいと思っているため。(他1名)
- ・ 地域連携(ボランティア活動、その他)に関わっており、テーマに関心があるから。(他3名)
- ・ 学生と地域の連携について課題を感じているため。
- ・ 自分の住む地域でも地域連携活動が必要と考えたので。
- ・ 今後の仕事に活かしたいため。
- ・ 大阪の最新情報を共有したい。
- ・ 面白そうだったから。

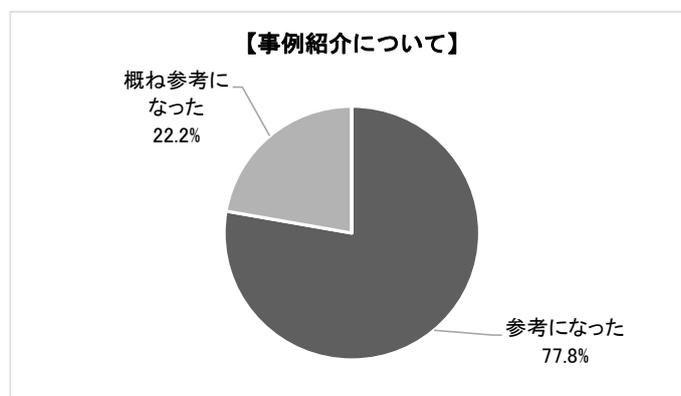
3. 話題提供(事例紹介)について

1 参考になった	7
2 概ね参考になった	2
3 あまり参考にならなかった	0
4 参考にならなかった	0
5 その他	0

9

【上記を選んだ理由】※参考になった

- ・ 大学ボランティアセンターのことをよく理解できた。
- ・ 先進で豊富な事例であるから。
- ・ どのような経緯で組織ができ、全体としてどのような取組みをされているのか知らない部分も多かったので、参考になった。
- ・ 大学のボランティアセンターとしての活動が、今更ながらではあるが、よく分かった。
- ・ 統合した大阪公立大学の積極的な姿勢がよく伝わってきた。
- ・ 初めて大学ボランティアセンターの活動実態を知れたため。
- ・ さまざまな機関の方が集まっていたから。



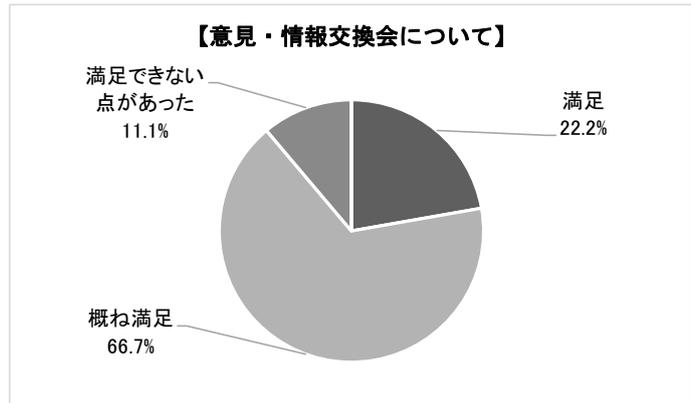
【上記を選んだ理由】※概ね参考になった

- ・ 日々、学生と向き合いながら、ボランティアセンターを運営されてる松居さんの話がよく分かった。特に学生の意識なども参考になった。
- ・ 途中参加のため。

4. 意見・情報交換会について

1 満足	2
2 概ね満足	6
3 満足できない点があった	1
4 不満	0

9



【上記を選んだ理由】※満足

- ・ ボランティアセンターの職員や先生から忌憚ないご意見を聞くことができ勉強になった。
- ・ 学生と地域が繋がるための課題や希望を知ることができた。

【上記を選んだ理由】※概ね満足

- ・ 様々な方の取り組みを知ることができた。
- ・ 参加者間で自由に交流できた。
- ・ 全体で意見交換できる丁度ぎりぎりくらい的人数で、司会の先生が上手く回してくださっていて良かったと思います。自分自身がこれを聞きたいという話題をもっていかなかったので、発言できませんでした。また参加できる機会があれば、積極的に参加できればと思います。
- ・ 参加されていたみなさんからの発言がもう少し欲しかった。
- ・ もう少し時間設定をして欲しかった。

【上記を選んだ理由】※満足できない点があった

- ・ 他の関係者と話をする時間が足りなかった。

5. 本サロンの改善点

- ・ 5～6人で話せたら良い。
- ・ 名札(机置き)の表と裏にお名前を書いていただければ同じ側の座席のメンバーの名前が分かり易かった。
- ・ 今後の開催スケジュールなど示してほしい。依頼や協働できることが分からない。

6. 今後参加してみたい地域連携に関するテーマ

- ・ 大阪公立大学以外の学生が地域に入っている事例を知りたい。
- ・ 学生の意向(こんな経験がしたい、地域とこんな取組みがしたい等)が知れる機会があれば有難い。
- ・ 当面は大学ごと(キャンパスごと)の自由な事例発表をお聞きしたい。
- ・ 産官学連携での取組み。

7. その他、本サロンに参加した感想や上記で回答した以外の意見

- ・ 久先生の提唱される井戸端会議のような形式をより多く取り入れてほしい。
- ・ もっと多くの学生と関わりを持つ機会となれば良いと思う。

以上